

広告

企画・制作：  
(株)読売広告西部

# 多様な病態の骨軟部腫瘍



大分大学医学部整形外科  
大分大学医学部先進医療科学科

教授 田仲 和宏 氏

骨肉腫など、2000以上の種類（組織型）がある稀少がんのひとつ「骨軟部腫瘍」について、大分大学医学部先進医療科学科教授で『Japan Clinical Oncology Group (JCOG)』骨軟部腫瘍グループ事務局「Japan Ewing Sarcoma Study Group (JESS)」日本ユーイング肉腫研究グループ代表者を務める田仲和宏氏に、お話を伺った。

原因不明のしこり、長く続く痛みがある場合は整形外科での受診を

——骨軟部腫瘍とは、どんな病気ですか

骨軟部腫瘍は全身の骨や関節、筋肉や脂肪組織などの軟部組織から発生する腫瘍で、人口10万人あたりの年間の新規患者数が6人未満という発生頻度が少ない「稀少性」と、およそ2000以上のさまざまな組織型（種類）があることが特徴です。原発性でもっとも多くみられる悪性の骨腫瘍は、主に大腿骨や脛骨、上腕骨にできる骨肉腫で、多くは骨幹端（こっかんたん）に発生します。好発年齢は骨肉腫やユーイング肉腫は10代、滑膜肉腫は20代、軟部肉腫は中高齢者と、組織型によってそれぞれ異なります。骨軟部腫瘍の原因は、一部の腫瘍ではDNAの異常が関係すると言われていますが、はっきりと分かっています。リスク因子もないため、予防が難しい疾患なのです。骨腫瘍のなかには、転移性のもものもあります。骨転移といって、乳がん、前立腺がん、肺がんなどが骨に転移するものです。なかには骨転移からがんが見つかった、というケースもあります。

——では、どんな症状が現れたら骨軟部腫瘍を疑った方がいいのでしょうか

腕や脚にしこりがあったり、痛みが続くといった症状が現れますが、あまり特徴的ではないため、身体的所見だけでは疑われない場合がほとんどです。CTでも分かりにくく、発見が遅れてしまうことがありますので、MRI検査と生検によって正確に診断する必要があります。原因不明のしこり、長く続く痛みがある時は、整形外科での受診をおすすめします。

——骨軟部腫瘍の治療について教えてください

骨軟部腫瘍には良性と悪性があります。良性で症状がない場合は経過観察、痛みがある、腫瘍が増大傾向にある、病的骨折の恐れがあるなどの場合は手術をおこないます。悪性の治療は手術が基本です。「広範切除」といって、腫瘍の取り残しがないように周辺から包むように切除します。この手術に化学療法や放射線治療を組み合わせるなど、腫瘍の組織型によって治療法もそれぞれです。手術によって切除した部分の骨や皮膚の欠損は、人工関節などで再建します。医療機器の進歩により、画像で腫瘍部分を正確に把握し、切除・再建において的確で緻密な計画を立てることができるようになりました。昔は発症すると

骨軟部腫瘍は、予防が難しい病気です。痛みやしこりなど体の異常に気づいたら、まずはお近くの整形外科を早めに受診することを心がけてほしいと思います。骨軟部腫瘍が疑われる場合は、専門の病院を受診することを検討ください。どんな病気でも「早くみつける」が大切ということを、覚えておきましょう。

——骨軟部腫瘍の治療は、進歩し続けているのですね。貴重なお話をありがとうございました。最後に、読者のみなさまにメッセージをお願いします

